



日本統計学会 会報 2005. 7.25 No. 124

発行 日本統計学会
東京都港区南麻布4-6-7 統計数理研究所内
〒106-8569 Tel 03-3442-5801 Fax 03-3442-5924
編集責任 竹村彰通(理事長) / 佐藤整尚(庶務理事)
大塚幸輔(広報理事) / 栗原考次(広報理事)
振替口座 00190-2-61361
銀行口座 みずほ銀行広尾支店普通1092212番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

目次

1 巻頭随筆「データサイエンスの新たな息吹」村上征勝...1	6 日本学会議の報告柳川 堯...9
2 2005年度統計関連学会連合大会のお知らせ佐藤整尚・大瀧 慈・岩崎 学...3	7 研究部会新設公募10
3 浅井晃先生を偲んで佐井至道...5	8 研究集会案内10
4 シリーズ：統計学の現状と今後「計量経済理論」西山慶彦...6	9 修士論文・博士論文の紹介15
5 海外研修記 - カリフォルニアに滞在して -難波明生...8	10 公募情報16
	11 理事会議事録17
	12 会報No.123号の訂正20
	13 事務局から20

名簿改訂のお知らせ

今秋に会員名簿の改訂を行います。現在の名簿から変更のあった項目を、2005年9月30日(金)までに、同封の名簿改訂記入用紙に記入し、事務局にご返送いただくか、E-mailでjusho@jss.gr.jpまでご連絡下さい。記入方法については、用紙裏面の記入要領をご覧ください。事務局では名簿に記載されている項目の他に、入会時に記入いただいた項目などのデータベースを保持していますが、前回の改訂時より新たに「研究・教育・業務のキーワード」という項目を設けておりますのでご協力をお願いいたします。

理事会や事務局からの連絡をE-mailで行う場合もありますので、E-mailアドレスをお持ちでまだお知らせいただいていない方は、これを機会に是非お知らせ下さい。

このたびの改訂名簿から、記載内容を簡素化する予定です。個人情報の扱いに慎重を期するため、会員各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

1 巻頭随筆「データサイエンスの新たな息吹」

村上征勝(同志社大学文化情報学部)

学問の進歩発展に伴い研究領域は細分化の一途をたどってきた。そして、このような研究領域の細分化により、研究内容の体系化が進み、研究はより精緻なものとなってきた。しかしその一方、研究領域の細分化は、学問を多面的、総合的に捉えるという視野に欠けるという問題を含んでいた。

そのため、近年、多様な研究領域の知識を融合し、学問を総合化することの重要性が指摘され始めた。教育の分野でも、このような動きに応ずるように、「文理融合型」の教育や総合学習の重要性が叫ばれている。

このような学問の総合化や「文理融合型」の教

育の要（かなめ）に、私は「データサイエンス」が成りえるのではないかと考えている。ここで、「データサイエンス」と言う言葉は、統計学を中心とし、情報学、計算機科学などのデータを扱う研究を包括する広い研究領域という意味で用いている。

これまでデータサイエンスの諸手法が、自然科学や社会科学の領域で大きな貢献をしてきたことは論を待たない。しかし、人文学の研究者は、数値データを用いて議論する研究方法は、感性を重視する人文学の研究にはなじまないところがあり、自分たちの学問とは縁遠い研究領域と考えてきた感がある。

一方、データサイエンスの研究者にも、語学、文学、芸術、歴史、考古学を初めとする人文学の領域では、数値データがないか、あっても少ないので、自分たちが貢献できる可能性は小さいという誤解が少なからずあったように思われる。

しかし、データは集めるものではなく作るものであるという、より積極的な視点に立てば、いかなる研究領域でもデータサイエンスの手法は貢献できるはずである。データサイエンスのさらなる発展を考える時、新たな理論の開発に加えて、新しい応用領域の開拓は欠かせない。そう考えると、これまでほとんどデータ分析が試みられていない人文学の領域は、まさにデータサイエンスにとって未開の応用領域といえよう。

ところでこの4月、同志社大学に文化情報学部（入学定員250）が誕生した。文化や社会の諸現象の研究に自然科学的な手法を導入するという、「文理融合型」の本格的な教育・研究を目的とした学部である。

この学部のキーワードは“文化解析”と“データサイエンス”であり、文化や社会の諸現象に関する多様な講義と、現象を科学的に解析するための基盤となるデータ分析の講義やコンピュータ、情報処理に関する豊富な講義が用意されている。

たとえば、データサイエンスの科目としては、データサイエンス入門（注：内容は記述統計）、データサイエンス入門演習、データサイエンス基

礎（注：内容は数理統計）、データサイエンス演習、確率・統計、定量的データ分析、定量的データ分析、定性的データ分析、定性的データ分析、時系列解析、社会調査法、意思決定の基礎、数理モデルなどがある。これらの科目に加え、数学の基礎的科目が6科目、データベースシステム、プログラミング、人間の情報処理などのコンピュータ関連や情報処理に関連する科目が12科目用意されている。

また、文化解析に関する科目としては、最新の考古学、美術の分析などの紹介や、家元などが、お茶、お花伝、お香、和菓子、日本料理など伝統的な日本文化について講義するトピックスと呼ぶ導入的な科目が6科目、これに加え、文化情報学、文化解析、文化解析、文献解析、芸術解析、文化財解析、音楽解析、映像解析、身体論、翻訳解析、感性情報解析、言語解析入門、言語解析基礎、言語解析応用、計量言語学、数理言語学、比較文化論、伝統文化論、文化記号論、行動計量学などの専門科目が用意されている。さらに、文系・理系の教員がグループを作り文化現象の分析に関して指導する、実験・演習やプロジェクトと呼ぶ科目が7科目設けられている。教員は文系12名、理系13名の計25名で、このうち、統計学、数学の教員は7名である。文系の教員12名では文化領域をすべて網羅することは出来ないため、専門家のいない領域は文学部などに協力をお願いすることになっている。

文化に係わる研究は、突き詰めるなら、人間の“心”の研究といえよう。しかし、人間の心は複雑で曖昧模糊としており、したがって文化に係わる現象もまた曖昧模糊としてとらえどころのないものが多い。その意味で、文化現象の分析は難しいといえるが、このような文化現象の解明にデータサイエンスがどれほど貢献できるか、個人レベルでなく、大学の学部レベルでのデータサイエンス応用の試みが、日本文化の発祥の地京都で始まった。データサイエンスの新たな息吹を感じていただき、この新設の学部を応援していただけたら幸いである。

2 2005年度統計関連学会連合大会のお知らせ

佐藤整尚・大瀧 慈・岩崎 学(連合大会企画委員会)

標記連合大会の企画についてお知らせします。本年度も以下のようなすばらしい企画が目白押しの魅力ある大会となっています。皆様のご参加をお待ちしています。プログラムや宿泊をはじめ最新の情報は連合大会のホームページ

<http://www.jfssa.jp/taikai/>

に随時掲載しますのでご覧下さい。こまめにチェックすることをお奨めします。

主催：日本統計学会，応用統計学会，日本計量生物学会

協賛：日本分類学会，日本行動計量学会，日本計算機統計学会

日程：2005年9月12日(月)～9月15日(木)

会場：広島プリンスホテル

(<http://www.princehotels.co.jp/hiroshima/>)

〒734-8543 広島県広島市南区元宇品町23-1

TEL：082-256-1111 / FAX：082-256-1134

情報源：連合大会ホームページ

<http://www.jfssa.jp/taikai/>

参加費

- 研究報告会(報告集代を含む)
会員(主催，協賛の6学会の会員)：5,000円
学生(会員・非会員を問わず)：2,000円
それ以外の非会員：10,000円
- チュートリアルセミナー(資料代を含む)
会員(6学会)：2,000円
学生(会員・非会員とも)：1,000円
非会員：4,000円
- 市民講演会：無料
- 懇親会：6,000円

今年から事前参加申し込みがWeb上でできるようになりました。詳細は大会のホームページを参照ください。この事前参加申し込みではチュートリアルセミナーや懇親会の申し込みもできます。事前申し込みをしていただき、期日ま

でに入金していただくと、参加費および懇親会費が500円割引になります。皆様の申し込みをお待ちしております。なお、事前申し込みの締め切りは8月26日です。

大会日程

- チュートリアルセミナー
9月12日(月) 13:30～16:30
- 市民講演会 9月12日(月) 17:00～19:00
- 研究報告会 9月13日(火) 9:00～17:10
9月14日(水) 8:40～18:50
9月15日(木) 9:00～12:10
- 学術会議シンポジウム
9月13日(火) 17:20～19:20
- 応用統計学会：学会賞授賞式
9月13日(火) 12:20～12:40
- 日本統計学会：総会・学会賞授賞式
9月14日(水) 12:20～13:00
- 懇親会(広島プリンスホテル)
9月14日(水) 19:20～21:00
- 閉会式およびコンペ授賞式
9月15日(木) 12:20～12:40

特別講演および企画セッション一覧

日本計量生物学会奨励賞受賞者講演

(13日午前)

科学的な推論の形式としてのBayes統計

(13日午後)

がん臨床試験における統計学の新展開と応用

(13日午後)

アレイデータ解析周辺にみる新しい統計的視点

(13日午後)

保険とファイナンスにおける統計的リスク管理問題(13日午後)

日本統計学会会長就任講演(14日午後)

統計関連学会の今後を考える(14日午後)

幾何学的形態測定学における統計学

(14日午後)

政府統計制度の再構築に向けて(15日午前)

コンペティション

今年度も研究活動を開始して日の浅い会員のより質の高い研究発表の奨励を目的としてコンペティションを実施します。今年度は、コンペティション講演は各セッション内に配置され、審査は当該セッションへの出席者による記名投票によっておこないます。本企画の趣旨をご理解の上奮ってご投票ください。最優秀報告賞を1名、優秀報告賞を2名選出し、大会の閉会式(表彰式)にて受賞者を発表して表彰します。

●チュートリアルセミナー

チュートリアルセミナーは2テーマを同時並行開催します。

日時：2005年9月12日(月)13:30~16:30

参加費：会員(6学会)：2,000円

学生：1,000円

非会員：4,000円

テーマ1：Rによる経済・経営データの分析」

オーガナイザー：西郷 浩(早稲田大)

講師：山本義郎(東海大)

安川武彦(金融工学研究所)

テーマ2：疫学研究のデザイン入門

オーガナイザー：上坂浩之(日本イーライリリー)

講師：藤田利治(国立保健医療科学院)

●市民講演会

(平成17年度文部科学省科学研究費補助金(研究成果公開促進費)補助事業)

日時：2005年9月12日(月)17:00~19:00

会場：広島プリンスホテル2F

参加費：無料

テーマ：原爆被爆者の実態；

被爆60年の経過と現状

- ・講演1：原爆被爆者における放射線被曝線量と健康・寿命の関係。統計的解析方法と結果

講師：Dr. John Cologne(放射線影響研究所)

日本語での講演

概要：放射線影響研究所で行ってきた原爆被爆者の健康実態に関する追跡研究の知見について、統計的手法に対する説明を加えながら紹介する。

- ・講演2：原爆被爆者のこころとくらしの実態：朝日新聞「被曝60年アンケート調査」結果を手がかりに

講師：川野徳幸(広島大・原爆放射線医科学研究所、国際放射線情報センター)

概要：朝日新聞社は広島大学および長崎大学の協力の下に、日本全国の原爆被爆者約4万人を対象にアンケート調査を実施した。本講演では、このアンケート調査結果をもとに、60年間にわたる(継続的な)原爆被害の実態としての被爆者の「くらし」と「こころ」に焦点を当てる。

保育室

チュートリアルセミナーおよび研究報告会開催中、保育室が利用できます。利用を希望される方は連合大会ホームページをご覧の上お申し込みください。

大会で講演される方へ

- (1) 講演時間：一般講演およびコンペティションは質疑応答を入れて20分です。時間厳守でお願いします。企画セッションでの講演時間はセッションごとに異なります。
- (2) 使用機器：各講演会場とも液晶プロジェクタおよびOHPが使用できます。液晶プロジェクタに接続するWindows PCを会場ごとに用意しますが、PCにはPowerPointなど必要最小限のソフトウェアしかインストールされていません。また、ご自身のPCを持ち込んでの使用も可能です。講演前の動作確認をお願いします。

3 浅井晃先生を偲んで

佐井至道（岡山商科大学）

本学会名誉会員の浅井晃先生が平成17年5月17日に逝去されました。浅井先生は大正11年京都市生まれで、昭和22年に名古屋帝国大学理学部数学科を卒業された後、当時の総理庁統計局に勤務され、総理府と名称が変更される前後に人口部の技官として活躍されるとともに、統計職員養成所講師も務められました。昭和28年に千葉大学文理学部講師となられた後は、昭和63年に理学部教授として定年退職されるまで、統計調査について精力的に研究を続けられるとともに、私たち後進の指導に力を注いで来られました。昭和63年から平成5年までは東洋大学経済学部教授として、長年培ってきた知識と経験を基に私学の発展にも貢献されました。

浅井先生と初めてお会いしたのは千葉大学に入学した昭和55年です。私が理学部数学科で過ごしたのは先生が理学部長を務められていた4年間で、学生から見ても先生の忙しさがよく分かりました。浅井先生が村上正康先生と共訳されたP.G.ホーエル著の「初等統計学」と「入門数理統計学」の2冊は、その当時、数理統計学のバイブル的な存在で、私が統計学の道に進んだのもこの2冊との出会いがきっかけです。浅井先生は常々「この2冊は数理統計を分かりやすく書いているからこそ、完全に理解するのは逆に難しい」と話されていましたが、確かに奥深い本です。先日インターネットで検索したところ、今でも多くの講義でテキストとして利用されていました。今後も、これらの本との出会いをきっかけに数理統計学に興味を持つ学生が現れることを先生も願っていることでしょう。

浅井先生の研究人生は標本調査一筋と言っても過言ではないでしょう。その姿勢は統計局に勤められた6年間に培われたのは言うまでもありません。私の大学院修士課程での指導教官は田栗正章

先生でしたが、大学院生が3名と少数だったこともあり、ゼミには必ず浅井先生も顔を出してくださいました。私たち学生が発表をする際、先生は小さな間違いなどにはクレームをつけないものの、サンプリングに関連した説明を僅かでも間違った場合には徹底的に絞られました。例えばsample sizeを「標本数」と訳した折には「標本の大きさとするのが当然で、統計のイロ八だ」と厳しく指導されたことが懐かしく思い出されます。

私が岡山の大学に就職してからは、時々岡山に足を運んでくださいました。実は倉敷に先生お気に入りのホテルがあり、そのホテルにご夫婦で宿泊するのが目的だったのですが、私にも声をかけてくださって、妻と一緒に食事をさせて頂くこともありました。今、真っ先に思い浮かぶ浅井先生の顔はそのような食事中の穏やかな表情で、トレードマークの分厚い眼鏡の奥の優しい目が忘れられません。

厳しい指摘をされることもありました。10年ほど前、日本統計学会での私のサンプリング法に関する報告を浅井先生は前の方でじっとお聞きになっていましたが、セッションが終了しても何もコメントして下さりません。翌日自宅に戻ったところ浅井先生から電話がかかってきて、「あれは全くおもしろくない。それに話が小さい。」とのこと。わたしはかなりショックを受けて1週間ほど気が抜けた状態で過ごしましたが、そのうち、私の報告には実査としての視点が欠けており、机上の理論に頼ったところがあることに気づきました。浅井先生は統計局勤務時代に、標本設計に関して実に多くの理論的な貢献をされましたが、同時に自分自身でも率先して実査に携わったそうです。平面図を頼りに調査世帯を決めて、奈良県の山深い村へ出かけたところ、地図上ではすぐ近くにある2つの集落の間に深さ数百メートルの谷が

あり、ほとんど調査の難しさを実感したという話をされていたことを思い出しました。それ以後は実査や調査データに根付いた研究をするように心がけています。

浅井先生と最後にゆっくりお話ししたのは5年ほど前の応用統計学会の際でした。若い時分から患っていた目の具合が相当悪くなり、会場まで来るのが手探りの状態でしたが、「佐井君の報告を聞こうと思って今回も来たよ」とおっしゃってくださいました。報告が終わった後、お茶の水駅のそばのカフェで1時間ほど話し込みました。個票データ公開関連の研究が盛んに行われ、官庁統計に関しても様々な角度から報告がなされていた頃であり、浅井先生はご機嫌でした。ただいくつか

釘をさすことも忘れておらず、その時指摘されたことは今でも肝に銘じています。

今、私の手元に浅井先生が昭和62年に書かれた「調査の技術」があります。名著だと思います。先生が「自分の総決算のつもりで書いた」と言われたように、先生の研究そのものを体現しており、しかも近年他に類を見ない本だと思います。私には何十年経っても書けない本ですが、今後の研究の羅針盤のように使わせてもらおうつもりです。

最後になりましたが、適任者が大勢おられる中で私に追悼文を書く機会を与えてくださったことに感謝致します。

浅井晃先生のご冥福を心よりお祈り致します。

4 シリーズ：統計学の現状と今後「計量経済理論」

西山慶彦（京都大学経済研究所）

ゴールデンウィークに計量経済学を専門とする関西在住の先生方数人で集まる機会があり、その後の飲み会の最中に、統計学会報の編集をされている先生から「今興味をもっていることなんかでいいので、2000字ほどの文章を書いてくれ」と頼まれた。学生時代からお世話になっている先生でもあったので、酔った勢いも手伝って気軽にお受けしてしまったのだが、後日正式にメールで依頼がきて、「シリーズ：統計学の現状と今後」というタイトルだという。最初はまあ何か書けるだろうと暢気に構えていたのだが、よく考えてみると自分はただの一計量経済学者であり、「統計学の現状」などちっとも知らず、「その今後」を語るなんぞは以っての外なのである。そこで大いに絞り込みをかけて、「統計学の現状と今後 - 計量経済理論」というタイトルで思うところを記す、ということでお許し願いたいと思う。申すまでもなく、乏しくかつ偏った勉強、知識、情報に基く独断的な私見であり、多くのご異論、ご異議があると思うが、学術論文というわけでもないので読者の皆様、ご容赦を。

さて、計量経済学に関わりのある方なら皆さんご存知の通り、この分野では前世紀後半に、同時方程式の統計的解析の問題、それに続いて単位根・共積分過程に関する時系列解析という2つの大変なビッグウェーブが巻き起こった。その後これまでに、計量経済理論においてどのようなトピックが注目されているか、一部の計量経済理論の専門誌を過去4 - 5年ほど遡って今一度パラパラとめくってみた。もちろん編者の好み等が色濃く反映された結果、雑誌によって随分差があったりするわけだが、いくつかキーワードが浮かび上がってきた。

まずなんと言っても横綱格は、押しも押されぬ「計量ファイナンス」の分野である。確率微分方程式、ARCH、SVモデルやその派生モデルなど金融データの説明に有効とされる種々のモデルの推定検定問題を扱っている。データが整備されて使いやすくなると共に計量経済学のみならず数学、工学系の研究者も積極的に参入しており、誰もがご承知の通り、この分野は統計学の中でも大きなトピックとして分野横断的に成長中であ

る。私は計量ファイナンスはよく知らなくて、実は大学院生達に教えてもらっているくらいであるが、考えるべきことはまだまだ残っていて、分野として「飽和」するのはしばらく先のことのようにある。

それに続くトピックは、90年代に入って経験尤度法（EL）の理論的發展に刺激される形で関係者の興味を再起している「条件付モーメント条件に基く推測問題」である。これは、ある既知の関数 m と未知パラメータ θ について、 $E[m(X, \theta) | Z] = 0$ という条件付モーメントに関する条件で表現されるようなモデルの統計的推測を扱うものである。多くの経済理論の帰結はこのような条件付モーメント条件で表されるため、これは計量経済学では最重要課題の一つと位置づけられている。それに用いられるツールはGMM法とその派生手法、ELなどであり、古くは（とっては失礼かもしれないが）60 - 80年代に盛んに研究された同時方程式推定の一部もこの枠組みで考えることができる。ごく最近、実はそれらの推定法は2SLS、LIMLなどとパラレルな関係があることが前理事長国友先生の論文に示されており、実に興味深い。また、関連する研究としては条件付けに用いられる操作変数の個数が多い場合のバイアス問題の対処法についても様々な結果が発表されている。

第3のトピックはtreatment effectと呼ばれる、「政策（プログラム）効果分析の問題」である。これは、我々にとって卑近な例で言えば、科研費などの研究費補助制度が有効に機能しているかを調べる手法を考えようといった問題である。この手の問題は、統計処理上厄介な2つの問題を含んでいる。第一はプログラム効果を直接測定できないというものである。なぜなら、科研費があたった人に関しては、補助金を受けたという条件下での学術的パフォーマンスが観測されるだけで、もらえていなかった場合のパフォーマンスのデータは入手不可能であり、逆にあたらなかった人に関

しては、もし受給していた場合のパフォーマンスのデータが入手できないわけである。もう一つの問題は、個人がプログラムに参加するかどうかの意思決定という内生性の問題である。これらの理由により、統計学的な扱いには工夫を要する。しかし、経済政策上の問題としては、たとえば政府、地方公共団体などが提供する職業訓練などのプログラムが本当に有効に機能しているかどうかを調べるというような政策効果を計る手法として、もちろん大変重要な課題なのである。

以上、とりわけ脚光を浴びているという印象をもった3つのトピックを列挙してみたが、その他にも80年代後半頃から研究が進んできた単位根、共和分、長期記憶過程その他の時系列解析もまだまだ研究対象として健在であり、使えるデータがあまりないために今のところ盛り上がりには乏しいとはいえ空間計量経済学も比較的新しい興味である。また、道具立てやモデルの作り方という切り口からは、ブートストラップ法、ノンパラメトリック、セミパラメトリック法などもキーワードに挙げてよいであろう。

ここまで計量経済学の現状に関して述べてみたが、「今後」についてまだ何も触れていなかった。今後を語るのは現状を調べるよりももっと高い視点、より精緻な理解が必要であろう。幸か不幸か予定の紙数も大幅に超えてしまったので、それは私よりももっと適任のどなたかにお譲りすることにして、1件だけ文献を紹介するにとどめたい。今となっては少し古い文献ではあるが、「数理統計学の理論と応用」（東京大学出版会・竹内啓/竹村彰通編）の第11章、「計量経済分析の意義と有効性 - 過去30年の経緯と展望 - 」である。10年以上を経た今でも大変示唆に富む内容であり、読み返すと考えさせられることも多い。統計学、それにかかわる諸分野が色々な学問分野における実証研究の今後の発展にますます寄与し、発展していくことを祈りつつ筆をおくこととしたい。

5 海外研修記 - カリフォルニアに滞在して -

難波明生 (神戸大学)

平成16年の9月より約9ヶ月間、米国カリフォルニア大学リバーサイド校 (UCR) に滞在する機会を得ることができました。UCRはUCLAやUCSDで有名な、カリフォルニア州内に10箇所のキャンパスを持つUniversity of California (UC) の一つです。

リバーサイドはロサンゼルスから東に100キロ程の場所に位置し、渋滞に巻き込まれたりしなければ、ロサンゼルス国際空港から車で約1時間で行くことができます。田舎の広々とした町で治安も非常によく、大学から渡された案内には「アパートは鍵だけでなくチェーンロックも必ずかけるように」と書かれていましたが、私が住んでいたアパートにはそもそもチェーンロック自体がありませんでした。リバーサイドは内陸に位置するため、冬はロサンゼルスより寒く、夏は暑いという気候ですが、年間を通じて温暖で非常に過ごしやすいところです。夏は日差しが強く、気温もかなり高くなりますが、湿度が低く、日が沈むと涼しくなる上に風も比較的冷たいので、9月や6月のかなり気温が高くなる時期でも、日本よりも過ごしやすく感じました。このような温暖な気候を利用して、UCRでは柑橘類の研究にかなり力が注がれており、キャンパスには広大なオレンジ畑が併設されています。アメリカの西海岸には、国立公園等の多くの観光地がありますが、残念ながらリバーサイドにはミッション・インというニクソン大統領が結婚式を挙げた事で有名なホテルぐらいしか見る場所はありません。

滞在にあたって、最も困ったのが住居の決定でした。カリフォルニアの州法では「人種や国籍によって入居を拒否することはできない」のですが、ほとんどのアパートで「ソーシャルセキュリティーナンバー (SSN) を持っていない人には貸せない」と言われたのです。学生でもなく、アメリカ

国内で収入を得る予定もない私は、SSNを取ることができないため、このようなアパートに入居することが不可能だったのです。SSN無しでも入居できるアパートも当然あるのですが、そのようなアパートも既に満室のところばかりだったため、住める場所を探すのには本当に苦労しました。結果的に、十数ヶ所のアパートをまわって、ようやく入居できる部屋を見つけることができました。CNNニュースで見たのですが、リバーサイドは現在アメリカ人が家を買いたい場所のかなり上位に入っているそうです。そのせいか、アパートの賃料はこの数年で大幅に上昇し、また人口の増加に伴い犯罪の発生件数も増加しているそうです。とはいえ、カリフォルニアの大都市に比べれば、かなり住みやすい場所であると思います。

また、カリフォルニア自体が車社会な上に、リバーサイドは田舎町なので、車無しでの生活は少し大変です。私も渡航前は車を購入するつもりだったのですが、結局車無しで過ごしました。同じカリフォルニア州でも、オレンジカウンティのように日系人の多いところであれば日系のスーパーマーケットもあるのですが、残念ながらリバーサイドには日系人はほとんどいないので、日系スーパーはありませんでした。しかし、幸いなことに、日本食ブームのおかげで近くのスーパーでもいくらかの日本食を買うことができ、また、ほとんどの物がインターネット上で購入できるので、何とか車無しで過ごすことができました。しかし、車無しでは観光に出かけることもあまりできなかったのが残念ではありました。もう一つ車がなくて困ったのは、雨の日の買い物です。通常カリフォルニアでは、年に数回ストームと呼ばれる激しい雨が降る以外はほとんど雨が降らないと聞いていたので、折り畳み傘しか持って行っていませんでした。ところが、日本のニュースでも放送された

ようですが、今年のカリフォルニアは観測史上初と言われるほどの大雨で、アパートから出ることさえできない日がしばらく続いた時には少し参りました。

このようにいくつかの困った点はあったものの、私を受け入れてくださったUllah教授夫妻が非常に親切であったこともあり、全体としては非常に楽しく過ごすことができました。中でもUllah教授の講義の進め方は非常に興味深いものでした。大学院生向けにノンパラメトリックな手法の講義を行っていたのですが、途中に一回休憩

を挟む約3時間の講義を、講義ノートもテキストも見ることなく授業を進めていき、その上ほとんど間違えることも無いのには本当に驚きました。また、普段はどちらかと言えば物静かなタイプだと思える教授が、講義中は非常に生き生きとした話し方で、一回の講義中に何度も学生を笑わせるのを見て、私も学生の興味を引きつけるような講義を心がけなければならぬと思いました。

本当にあっという間に過ぎてしまった9ヶ月間でしたが、また機会を見つけて様々な国・場所に滞在してみたいと思っています。

6 日本学術会議の報告

(日本学術会議第4部会員)

柳川 堯(久留米大学バイオ統計センター)

日本学術会議は、2004年9月から、主要な動き等を会員に知らせるため会員宛メールでニュースの配信を開始しました。その後、メールの配信を研究連絡委員会委員やリンクを設定した学協会宛に広げてきました。ご覧になっていない方は直接、日本学術会議ホームページ(<http://www.sci.go.jp>)を開いてください。学術団体主催研究会・共同主催国際会議の案内、日本学術会議の改革、日本の科学技術政策の要諦なども掲載されています。

4月19日(火)から21日(木)まで、春の総会が開かれました。日本学術会議は4月1日に総務省から内閣府に移管された最初の総会であったことから、4月19日(火)には、棚橋泰文科学技術政策担当大臣が、翌20日(水)には、細田博之内閣官房長官がお見えになり、ご挨拶がありました。総会では、「大都市における地震災害時の安全の確保について(勧告)」が提案、採決され、首相官邸において、黒川清会長から小泉純一郎内閣総理大臣に対し、勧告が手交されました。勧告の要点は以下のようです。勧告の実施においては、データをとり根拠に基づく対策を立てるということが不可欠であり、まさに統計科学の活躍が期待さ

れるところです。

1. 地震防災上の最重要課題として、既存不適格構造物の耐震性強化(耐震補強)及び危険な密集市街地の防災対策の推進のため、必要な法改正をはじめ抜本的な対策を立て早急に移行すべきである。
2. 大規模化・複合化する都市地下空間について、地震をはじめとする災害に対する統合的防災基準及び危機管理体制を確立することが必要である。
3. 大都市の広域災害時における安全確保対策として、病院船の建造や感染症対策等の救急医療体制、また、情報・通信インフラ、大深度ライフラインによる重要業務集積地域への支援体制、及び広域災害時の防犯対策などを早急に整備する必要がある。

7月に英国でG8サミットが開催されます。ブレア首相は「気候変動」と「アフリカ」の二つをテーマとして選んでいます。これに先駆けて、G

8 サミットでは初めてのことで、G8 アカデミーの宣言が出される予定です。政治家の会議の前に学術的エビデンスに基づく宣言をだしておくというのが趣旨です。21世紀の世界の政治は「人口問題」、「環境問題」、「南北格差問題」が底流となって展開すると予想されていますが、これらの問題は政治家だけでは手が及ばない科学の問題と深く関わっています。世界主要国の科学アカデミーが協力して、政治家が行う会議の前に科学者の会

議を行うことの重要性を黒川 清会長は繰り返し主張されています。日本の科学者コミュニティの叡智を結集してそれに貢献することが、今後の日本学術会議の一つの大きな在り方であると思われませんが、これらの問題は、いずれも不確実性に支配されています。不確実性といえば統計科学です。統計科学の出番が大きく期待されるところです。以上

7 研究部会新設公募

統計学の研究活動を助成するため、日本統計学会が1954年に研究部会制度を設けて以来、これまでに多くの研究部会が誕生し、統計学の発展に寄与して参りました。この制度は、公募制をとり、原則として年1ないし2件が評議員会の承認を得て発足します。継続期間は2年間、助成額は1部会につき年間10万円で、部会設置期間終了時には、会員への研究成果の公表と評議員会への事務報告が義務付けられています。また、研究会の開催を本学会のホームページに掲載することになっています。

今年も研究部会を公募いたしますので、ふるってご応募ください。

締切日：2005年10月28日

応募先：日本統計学会事務局

〒106-8569 東京都港区南麻布4-6-7

統計数理研究所内

応募書類の書式などは事務局までお問い合わせください。採用は、11月に開催される評議員会にて協議の上、決定いたします。

なお、研究分科会（設置期間4年間）については随時募集しております。こちらにも積極的にご応募ください。研究分科会の趣旨等については会員名簿（2003年12月）の記載または学会ホームページをご参照ください。

8 研究集会案内

〔日本統計学会が協賛・後援等をする行事〕

第51回全国統計教育研究大会（愛媛大会）

（大会主題：未来社会を切り拓く統計教育

- 自ら考え、主体的に判断し、実践する統計・情報活用能力の育成をめざして - ）

主催：全国統計教育研究協議会、愛媛県教育研究協議会統計教育委員会

日本統計学会後援

会期：2005年7月28日（木）、29日（金）

会場：第1日 にぎたつ会館

第2日 愛媛県民文化会館

照会先：

<http://www.sinfonica.or.jp/annai/stat-edu/index-top.html>

国際シンポジウム「ベイズ流応用多変量解析

（Bayesian Applied Multivariate Analysis）」

企画者：和合 肇（名古屋大学経済学研究科）

繁樹算男（東京大学総合文化研究科）

科学研究費「潜在変数モデルを用いた構造の統計的分析」（課題番号：15200022）代表者：和合肇（名古屋大学）によるもの

日本統計学会後援

期日：平成17年8月23, 24日

場所：東京大学駒場キャンパス

数理科学研究棟講堂

照会先：和合 肇 (wago@ism.ac.jp) または

繁榊算男 (kshige@bayes.c.u-tokyo.ac.jp)

日本行動計量学会第33回大会

主催：日本行動計量学会

日本統計学会協賛

会期：2005年8月26日(金)～29日(月)

会場：長岡科学技術大学

照会先：

<http://oberon.nagaokaut.ac.jp/bsj/index.htm>

日独分類会議

(The Japanese-German Joint Symposium on Classification)

(会議テーマ - 大量データの分析と分類のイノベーション -)

主催：日本分類学会

およびドイツ分類学会の共同事業

日本統計学会協賛

会期：2005年9月1日～3日

(8月31日にはチュートリアルセミナーも開催予定)

会場：多摩大学ルネッサンスセンター

(品川インターシティ27F)

照会先：<http://stat.tama.ac.jp/jgsc2005/>

第8回情報論的学習理論ワークショップ

(IBIS2005)

(Workshop on Information-Based Induction Sciences)

主催：電子情報通信学会情報論的学習理論時限研究専門委員会

日本統計学会協賛

会期：2005年11月9日(水), 10日(木), 11日(金)

会場：早稲田大学理工学部55号館大会議室

照会先：<http://ibis2005.bayesnet.org>

[その他にお知らせいただいた会合情報]

[科研費シンポジウム]

「量子推測理論の数理統計学的基礎とその応用」

「基盤研究A(1)」

研究代表者：赤平昌文，課題番号14204006による
シンポジウム計画一覧表(平成17年度分)

(1) 統計的推測理論とその応用

研究分担者：

高木祥司(大阪府立大学理学系研究科)

林 利治(大阪府立大学理学系研究科)

田中秀和(大阪府立大学工学研究科)

日時：平成17年11月14日(月)～16日(水)

場所：大阪府立大学学術交流会館学術交流センター
一小ホール

内容・目的：統計的推測理論に関する様々な理論的研究，ならびに応用的研究についての発表と討論を行う．Bayes法，Robust法，最尤法等の統計的手法の話題，またminimax性，許容性，有効性等の最適性に関する話題や新たな問題提起等も歓迎する．

旅費の配分：講演者を中心に配分する．

宿舍の斡旋：斡旋しない．

講演申込期限：平成17年9月30日(金)

申込先：田中秀和

〒599-8531 大阪府堺市学園町1-1

大阪府立大学大学院工学研究科

Tel: 072-254-9359 Fax: 072-254-9916

E-mail: tanaka@ms.osakafu-u.ac.jp

予稿集：予稿集を作成します．

講演者の方は予稿をA4サイズで10ページ以内，出来ればPDFファイルにてお送りください．

なお，集会報告書を作成しますので，講演者の方には別途，原稿の作成(A4サイズ2枚)を依頼します．

予稿送付期限：平成17年10月24日(月)

予稿送付先：上記申込先と同じ．

懇親会：平成17年11月15日(火)に予定しています．

(2) 「量子統計，量子情報幾何とその量子情報科学への応用」

研究分担者：

林 正人 ((独法) 科学技術振興機構・今井量子計算機構プロジェクト, 東京大学)
今井 浩 (東京大学情報理工学研究所)
松本啓史 (国立情報学研究所)

日時：平成17年11月17日(木), 18日(金)

場所：東京大学

内容・目的：量子統計，量子力学に基礎を置く新しい統計学の新分野である。近年，量子情報の基礎理論として，その重要性が高まっているばかりでなく，量子情報実験の有用なツールとしても，その重要性が高まっている。また量子情報幾何は量子情報に現れる最適化問題のツールとして有効性であることも近年明らかになっている。しかしながら，境界的な分野の常として，異なった分野で関連した話題を研究している研究者間のコミュニケーションが今まであまり十分でなかった。本ワークショップでは量子統計や量子情報幾何に関する内容から，量子情報科学全般にわたる内容を取り扱うこととし，情報交換の場としたい。なお，発表は海外からの招待講演者が含まれるため，英語で行われる。また，旅費の配分，及び講演者の選定については世話人に一任ください。

旅費の配分：講演者を中心に配分する。

宿舍の斡旋：斡旋しない

講演申込：後日，webで告知する。

講演申込期限：10月1日

問い合わせ先：林 正人

独立行政法人 科学技術振興機構
今井量子計算機構プロジェクト
〒113-0033 文京区本郷5-28-3
第二本郷ホワイトビル302号
Tel : 03-3818-3319 , 3314
Fax : 03-3818-3313
E-mail : masahito@qci.jst.go.jp

(3) 研究集会「実験計画法およびその周辺領域における組合せ構造の解明とその応用」

研究分担者：

白倉暉弘 (神戸大), 栗木進二 (大阪府大)

日時：2005年11月24日(木) 14:00~26日(土) 12:00

場所：天水閣

〒910-4103 福井県坂井郡芦原町二面48-10

TEL : 0776-77-3700 FAX: 0776-77-3701

URL : <http://www.tensuikaku.jp/>

内容・目的：実験計画法における統計的計画は統計学のみならず組合せ論の一部としても確立し，特に，近年，他の多くの分野への応用もみられるようになってきた。

本研究集会の目的は実験計画法およびその周辺領域(組合せ論，符号理論，暗号理論等)における組合せ構造の最新の話題に関する研究発表および情報交換を行い，今後の研究の方向性を様々な観点から見出すことである。

統計的計画の最適性，存在性，構成法，解析に関する話題，その周辺領域における組合せ構造に関する話題，さらに，通信工学，遺伝子工学等への応用に関する話題も歓迎する。また，最近の国際会議における情報や新たな問題提起等も歓迎する。

旅費の配分：講演者を中心に配分する。発表等の申込み(9月30日栗木まで)を行う際に，旅費の必要の有無を記載してください。

宿舍の斡旋：斡旋しない。

ただし，参加者のために開催場所となる宿に30名分(15室)を確保しているため，同宿に宿泊を希望する参加者は下記申込期限までに宿泊日を申込先に連絡してください。先着順に，希望者が30名となった時点で予約代行を終了する。料金は，1泊2食(朝・夜)付きで，10,000円(税，サ込)です。ただし，部屋は2名の相部屋となることを了解してく

ださい。

申込期限：9月30日（金）

申込先：栗木進二

〒599-8531 堺市学園町1-1

大阪府立大学工学研究科数理工学分野

TEL：072（254）9356（ダイヤルイン）

FAX：072（254）9916

E-mail：kuriki@ms.osakafu-u.ac.jp

問い合わせ先：上記申込先と同じです。

予稿原稿：講演者の方は予稿（ページ数は問わない）を当日35部持参してください。集会報告書は後日作成するので、講演者の方には別途原稿作成（A4サイズで2頁程度）を依頼する。

懇親会：11月25日に予定している（会費額は未定）。

（4）「確率統計学における漸近的方法 ... 統計解析・金融工学・保険数理・確率数値解析への発展」

研究分担者：

吉田朋広（東京大学大学院数理科学研究科）

高橋明彦（東京大学大学院経済学研究科）

林 高樹（コロンビア大学統計学科）

日時：平成17年12月6日（火）～12月9日（金）（予定）

場所：東京大学大学院数理科学研究科大講義室

内容・目的：確率統計学において発展してきた、分布近似のための漸近的方法が、最近様々な分野で活用されています。これは現実の応用に即して発展してきた現代理論統計学の方法の普遍性を示すものといえますが、このような傾向は今後さらに顕著になるものと予想され、本研究課題において、分布計算の新しい可能性を探りたいと思います。関連する問題を広く取り扱います。

<統計解析>

高次統計推測理論，確率微分方程式の推測，ボラティリティ推定とセミマルチンゲールの極限定

理，同期/非同期サンプリング問題，確率過程の漸近展開理論，マリアバン解析，サポート定理，レビ過程，ジャンプ型SDEとミキシング，統計的確率場の弱収束，空間統計，無限次元確率過程の極限定理とメトリックエントロピー法，強定常/非定常時系列解析と極限定理，超多変量解析，予測と情報量規準，条件付漸近展開とDEE，フィルタリング問題における漸近的方法，遅れ系と漸近理論，セミマルチンゲールパラメトリックモデルの情報幾何，学習理論

<金融工学>

オプション価格近似計算，最適ポートフォリオ，ハイブリッド法，クレジットリスクと生存解析，SVM・データの非正規性と漸近展開，流動性，確率積分の弱収束・SDEの解と汎関数の表現の安定性

<保険数理>

破産確率計算，信頼性理論，経験ベイズ法，複合型点過程の漸近展開

<確率数値解析>

摂動法による半解析的近似，確率的Romberg法，マリアバン解析の応用，制御変数法その他，ジャンプ型経路依存型汎関数の近似と誤差評価，楠岡近似，MCMC・MaLa，ブートストラップ，多重レビ積分の条件付期待値計算，漸近展開公式に現れるグリーン関数の計算

旅費の配分：講演者を中心に配分する。

宿舍の斡旋：斡旋しない。

講演申込期限：平成17年9月9日（金）

申込先：吉田朋広

〒153-8914 東京都目黒区駒場3-8-1

東京大学大学院数理科学研究科

phone：03-5465-8335

e-mail：nakahiro@ms.u-tokyo.ac.jp

<http://www.ms.u-tokyo.ac.jp/~nakahiro/hp-naka>

予稿集：予稿集を作成します。

講演者の方は予稿（A4サイズ10ページ以下）を予稿送付期限までにお送りください。

なお、集会報告書を作成しますので、講

演者の方には別途、原稿の作成（A4サイズ2枚）を依頼します。

予稿送付期限：平成17年11月18日（金）

予稿送付先：上記申込先と同じ

（5）統計数理の基礎理論について

研究分担者：大和 元（鹿児島大学理学部）

稲田浩一（鹿児島大学理学部）

近藤正男（鹿児島大学理学部）

日時：平成17年12月20日（火）～22日（木）

場所：鹿児島大学理学部1号館101講義室

内容・目的：統計的推測に関する基礎理論ならびに応用面での問題点への研究について発表と討論を行う。ベイズ的推論，多変量解析，時系列解析を含め，種々の統計的解析に現れる興味ある問題について，パラメトリック，セミパラメトリック，ノンパラメトリックを問わず種々の観点からの話題を歓迎します。

旅費の配分：講演者を中心に配分する。

宿舍の斡旋：斡旋しない。

（（財）鹿児島観光コンベンション協会

<http://www.kagoshima-con.or.jp>をご参照ください。）

講演申込期限：平成17年10月14日（金）

申込先：近藤正男

〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-35

鹿児島大学理学部数理情報科学科

Tel：099-285-8980

E-mail：kondo@sci.kagoshima-u.ac.jp

予稿集：予稿集を作成します。

講演者の方は予稿（A4サイズ10ページ以下）を予稿送付期限までにお送りください。

なお、集会報告書を作成しますので、講演者の方には別途、原稿の作成（A4サイズ2枚）を依頼します。

予稿送付期限：平成17年11月28日（月）

予稿送付先：上記申込先と同じ。

懇親会：平成17年12月21日（水）に予定しています。

「短期集中講義」

「Short Course“ Hierarchical modelling of spatial and temporal data ”」のお知らせ

本年11月28日から30日まで3日間、Duke大学のAlan Gelfand教授による短期集中講義“ Hierarchical modelling of spatial and temporal data ”を東京大学で開催を予定しております。この講義は東京大学COE「市場経済と非市場機構との関連研究拠点」の一環として行われます。

この講義は最近注目されている「空間統計分析」の分野で時空間データに適用するモデリングの方法を、主として大学院生、若手研究者を対象に入門から最近の話題までを11月28日（月）から30日（水）の3日間、1日6時間、英語で講義します。定員は30人を予定しています。貴重な機会ですのでふるって参加してください。参加費は無料です。

空間統計学の応用分野としては、バイオメトリックス、環境問題、マーケティング等多方面にわたります。本講義では基本的な理論だけでなく、統計ソフトウェアRとWinBugsを用いた演習も含まれています。講義を効率的に進めるために、基本的な統計理論（基礎とベイズ統計）を理解しておくことが必要です。もし必要な知識がない方には、前もって読んでおくテキスト、論文等が講師より指示されますので、読んでおいてください。また最近出版された

“ Hierarchical Modeling and Analysis for Spatial Data ”, by Banerjee, Carlin and Gelfand published by Chapman and Hall/CRC

も使用します。コースに必要なノート等は製本した形でお渡しする予定です。

講義スケジュール等を含めた詳細なお知らせは参加希望者にお知らせいたします。とりあえず、参加してみたい方は大森（omori@e.u-tokyo.ac.jp）

までご連絡下さい。その際、お名前、所属（大学院の方は専攻も）、統計学の基礎知識などの情報をお知らせください。

なお、引き続き12月1日から3日まで京都大学で“Hierarchical modelling of spatial and temporal data”に関する国際シンポジウムを開催します（下記の国際研究集会を参照ください）。このコンファレンスの発表者も募集中です。

「国際研究集会」

「潜在構造モデリングと時空間データの解析」
期日：12月1日（木）から3日（土）
場所：京都（追って詳しい場所をご連絡します）

本研究集会は、

「潜在変数モデルを用いた構造の統計的分析」（課題番号：15200022）代表者：和合 肇（名古屋大学）

研究期間：平成15年度～平成18年度
および

「時空間統計解析の理論と応用」（課題番号：15200021）代表者：矢島美寛（東京大学）
研究期間：平成15年度～平成18年度
のジョイント・コンファレンスとして開催します。

講演・参加申し込みにつきましては7月以降順次ご連絡しますので、興味をお持ちの方はご注意願います。

なお、Hierarchical modelling of spatial and temporal dataの分野において著名なDuke大学の

Alan Gelfand教授をはじめとして、数人の外国人研究者を招聘する予定です。

組織者：和合 肇（名古屋大学大学院）
矢島美寛（東京大学大学院）
福重元嗣（大阪大学大学院）
大森裕浩（東京大学大学院）

（英訳）

Title：International Conference on Latent Structural Modelling and Analysis for Spatio-Temporal Data.

Date：December 1st-3rd, 2005

Place：The beautiful place in Kyoto

Aim and Scope：The possible topics include Hierarchy modelling, Panel data, mixture models, structural equation models, time series models, spatio-temporal models.

Guest speakers：Alan Gelfand (Duke University) and several foreign researchers.

Sponsors：

The Ministry of Education Scientific Research Grant

No. (A) 15200022 (Principal：H., Wago)

The Ministry of Education Scientific Research Grant

No. (A) 15200021 (Principal：Y., Yajima)

Organizers：Hajime Wago (Nagoya University),

Yoshihiro Yajima (University of Tokyo),

Mototsugu Fukushige (Osaka University),

Yasuhiro Omori (University of Tokyo)

9 修士論文・博士論文の紹介

修士論文・博士論文の紹介を、(1)氏名(2)学位(3)取得大学(4)論文タイトル(5)主査・指導教官等、の順で記載します。

修士論文

1秋山豪太(2)修士(経済学)(3)東

京大学(4)変額年金保険の理論と実際(5)国友直人

[2](1)笹瀬吉隆(2)修士(経済学)(3)東京大学(4)経験ベイズ信頼区間の漸近補正と小地域推定への応用(5)久保川達也

[3](1)南慎太郎(2)修士(経済学)(3)東

京大学 (4) MISE Information Criterion for Single-Index Model (5) 矢島美寛
 [4](1) 宮脇幸治 (2) 修士 (経済学)(3) 東京大学 (4) Markov Chain Monte Carlo Estimation of the Residential Water Demand Function under Block Rate Pricing (5) 大森裕浩
 [5](1) 米田伸弘 (2) 修士 (経済学)(3) 東京大学 (4) Bayesian Analysis of Type 1 tobit and Type 2 tobit model with Reversible jump MCMC algorithm (5) 大森裕浩
 [6](1) 植松和毅 (2) 修士 (経済学)(3) 一橋大学 (4) 分割表の検定について (5) 高橋 一
 [7](1) 臼田泰祐 (2) 修士 (経済学)(3) 一橋大学 (4) LIBORマーケットモデルによる金利デリバティブの価格付け (5) 石村直之
 [8](1) 能城孝行 (2) 修士 (経済学)(3) 一橋大学 (4) 損害保険数理について (5) 石村直之
 [9](1) 植木宣仁 (2) 修士 (経済学)(3) 一橋大学 (4) MCMC法による確率的ポラティリティモデルの推定 (5) 高橋 一
 [10](1) 松島毅 (2) 修士 (経済学)(3) 一橋大学 (4) Yield-Curve Modelの推定 (5) 高橋 一
 [11](1) 松林 輔 (2) 修士 (経済学)(3) 一橋大学 (4) 天候デリバティブにおける気温モデ

ルの比較優位性 (5) 高橋 一
 [12](1) 山田 優 (2) 修士 (経済学)(3) 一橋大学 (4) デフォルト・リスクの相関についての考察 - CDOとCopulaからのアプローチ - (5) 高橋 一
 [13](1) 敦賀智祐 (2) 修士 (経済学)(3) 一橋大学 (4) 構造モデルによるデフォルト時損失率の推定 (5) 高橋 一
 [14](1) 江本麗行 (2) 経済学修士 (3) 名古屋市立大学 (4) 限界効用アプローチによる気温デリバティブの価格付け - ヨーロッパオプションを題材に - (5) 三澤哲也
 [15](1) ロク新紅 (2) 修士 (経済学)(3) 広島大学 (4) 経済時系列における構造変化の検定 - CUSUM Testを中心にして - (5) 前川功一

博士論文

1 河合研一 (2) 博士 (経済学)(3) 広島大学 (4) Essays in Empirical Finance and Time Series Analysis (5) 前川功一
 [2](1) 森本孝之 (2) 博士 (経済学)(3) 広島大学 (4) Modeling Incomplete Market with High Frequency Data in Finance (5) 前川功一

10 公募情報

独立行政法人医薬品医療機器総合機構 技術系職員 (正職員, 嘱託職員) 募集要領

独立行政法人医薬品医療機器総合機構は、平成16年4月に設立され、「健康被害救済」・「審査」・「安全対策」の三つの業務を柱としております。当機構は、医薬品の副作用や生物由来製品を介した感染等による健康被害の救済に関する業務、薬事法に基づく医薬品や医療機器などの審査関連業務及びその安全対策業務を行うことにより、医薬品や医療機器などの開発から使用までの全般に関わっています。私たちの使命は、「より有効で」「より安全な」医薬品や医療機器などを

「より早く」国民の皆様役に役立てていただくことです。そのために、指導・助言から審査、市販後の安全対策までを一貫させ、最新の専門知識と叡智をもって業務に取り組んでいます。

1. 職務内容：医薬品、医療機器等の承認審査に関する業務のうち、生物統計学の専門知識を必要とするもの
2. 募集人員：正職員または嘱託職員 5名程度
3. 応募資格：
 - (1) 生物統計学 (臨床統計学, 医薬統計学, 医療統計学等) の分野を専攻した修士課程以上の大学院終了 (見込みを含む) 者

(2) 生物統計学(臨床統計学, 医薬統計学, 医療統計学等)の分野を専攻した修士課程以上の大学院修了者であって, 臨床試験等の生物統計業務に従事した経験及び知識を有する方

4. 採用時期: 平成17年10月1日以降平成18年4月1日までの時期(相談により決定)

5. 勤務地: 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル

6. 勤務時間: 9時00分から17時45分, 又は9時30分から18時15分

7. 応募書類: (書類の様式は, 独立行政法人医薬品医療機器総合機構ホームページ

<http://www.pmda.go.jp/topics/>

[gsyokuinkoubo.html](http://www.pmda.go.jp/topics/gsyokuinkoubo.html)からダウンロードできます。)

(1) 採用試験受験申込書兼履歴書

(2) 自己紹介書

(3) 研究業績, 研究のテーマ・内容, 業務履歴, その他機構業務に役に立つと思われる自己の知識・経験等を記入ください。(また, 研究業績がある場合には, 主な論文, 学会発表抄録コピーなどを添付ください。)

(4) 大学卒業証明書及び成績証明書

(5) 大学院修士課程を修了された方にあつては, 修士課程修了証明書及び成績証明書

(6) 博士学位を取得された方にあつては, 博士課程修了証明書又は博士学位取得証明書

(7) 返信用封筒(サイズは長3で切手(430円)を貼付の上, 返信先の住所を表面に記載してください。)

(注1): 返信用封筒以外の提出書類は返却い

たしません。

(注2): 応募の際には, 上記の各証明書を必ず添付ください。これらの書類が添えられていない場合には, 第1次審査(書類審査)ができません。

8. 応募方法: 応募書類を下記に郵送(簡易書留)してください。(直接持参も可です。)

(提出先)

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-3-2

新霞が関ビル10階

独立行政法人 医薬品医療機器総合機構

総務部人事課

9. 応募期限: 随時受け付けます。

10. 選考方法: 第1次審査(書類審査), 第2次審査(小論文及び面接試験)及び第3次審査(最終面接試験)により, 選考します。(第1次審査の結果は, 応募締切後3週間ほどでお知らせします。)

11. その他のご留意いただきたい事項:

(1) 国家公務員に準じた職務制限及び離職後従事制限があります。

(2) 業務の性格上, 所要の守秘義務があります。

12. 応募に関するお問い合わせ先:

独立行政法人 医薬品医療機器総合機構

総務部人事課人事係

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-3-2

新霞が関ビル10階

TEL: 03-3506-9427

E-mail: saiyo@pmda.go.jp

(ホームページアドレス<http://www.pmda.go.jp/>)

11 理事会議事録

2004・2005年度第4回理事会議事録

日時: 2005年4月23日(土)

場所: 統計数理研究所会議室

出席者: 山本拓会長, 竹村彰通理事長, 鎌倉稔成, 田村義保, 宮川雅巳, 西郷浩, 前田忠彦, 汪金芳, 栗原考次, 佐藤整尚, 岩下登志也, 大屋幸輔, 丸山祐造

報告事項

<議題1> 会長, 理事長, 各理事からの報告

[会長]

日本分類学会から日独分類会議, システム制御情報学会からチュートリアル講座についてそれぞれ協賛依頼があり, 承認した。

日本学士会会員の候補者の推薦依頼があった件に関して、候補者一名を推薦した。

【理事長】

統計関連学会連合に関して、二名選出することになっている。

理事が藤越前会長、国友前理事長から山本会長、竹村理事長に引き継がれた。

また英語名がJapanese Federation of Statistical Science Associationsに決まり、ウェブページが立ち上がった。

韓国統計学会との交流の一環で、11月の韓国統計学会に二人の会員が招待され、招待セッションを企画することになっている件で、オーガナイザが谷口正信会員（早稲田大学）に決まり、いま一人は谷口会員が推薦することになっている。

大学評価・学位授与機構より依頼を受け「機関別認証評価に係る専門委員候補者」として、会員計8名を会長と合議の上推薦予定である。

横断型基幹科学技術研究団体連合に関して、4/26の総会でNPO法人設立が審議される予定であり、合わせて開催される記念講演会に、山本会長と竹村代議員の代理として大森会員が出席する。なお統計学会選出の代議員を田村理事に交代することが決まった。

名誉会員の推薦に関して議論した。

【欧文誌】

欠席の田中担当理事から、欧文誌35巻1号の準備状況、今年1月から3月末までの論文投稿状況（受付数は11本、未処理の論文は23本）、小川研究奨励賞の候補者の選出手順、の3点に関する書面報告があった旨、前田理事より説明された。

【和文誌】

鎌倉担当理事より、論文投稿状況及び9月発行号で予定している特集内容について報告があった。学会賞等の受賞者に寄稿を依頼する件は、執筆希望者のみお願いすることになった。また現状では和文誌の原稿を事務局に郵送する場合と、鎌

倉理事に電子ファイルをメールに添付する場合で、受付日にずれが生じていた問題で、事務局から受付日を附記して転送してもらうことになった。

【広報（会報・ホームページ）】

大屋担当理事より、会報123号は4/28の発送予定、124号は7月発行予定との報告があった。また会報封入作業の業者委託により経費削減につながるかどうかを検討することになった。

栗原担当理事より、ウェブページに関しては通常業務を滞りなく進めていること、またリンク切れ等になった古い情報を整理していること、ウェブを業務委託する件は統計関連学会連合と同じ業者にすることが望ましく、共同で議論を進めているとの報告があった。

さらに連合ウェブ管理委員会の現況報告があった。

汪担当理事より、英文ページの更新が着実に進んでいること、ASAのウェブページからJSSトップページに既にリンクが張られ、ISIにはリンク依頼の返事待ちとの報告があった。連合大会の英文ページはほぼ完成し、連合大会のページからリンクを張ってもらうよう依頼することになった。

【大会（企画・運営）】

大瀧担当理事より、市民向けのポスターを作成していること、市民講演会のスケジュールがほぼ確定したこと、出展ブースについて、過去に出展した企業から意見、希望を募っていること、また予稿集のCD-ROM版にソフトウェア体験版を載せる件で、多くの企業から問い合わせがあるとの報告があった。

宮川大会企画担当理事より、予稿集の製本版とCD-ROM版の編集方針の説明があった。

佐藤担当理事より、予稿集の原稿をウェブで受け付ける件で、アップロードしたものが適切に表示出来るかどうかを確認する仕組みを準備しているとの追加説明があった。

[渉外]

岩下担当理事より、入会案内書の最終案が示され認められた。会報に同封するなど、積極的に配布していくことになった。

学術著作権協会より連絡のあった、大学図書館間の資料相互貸借に伴う著作物の通信回線を利用した送信に関わる権利行使の委託契約について、同会による説明会での要点説明があり、委託契約を交わすことが承認された。

田村担当理事より、統数研公開講座を東京以外の地方で行なうことを計画中であり、統計学会に協力して頂きたいとの要望があり、承認された。

西郷担当理事より、学会選出の日本経済学会連合評議員が稲葉敏夫会員（早稲田大学）及び西郷浩理事に決まったとの報告があった。

2006年度連合大会に日本統計学会より提案する担当校が内定したこと、担当大学から9/4-9/8の5日分の会場を押さえたとの連絡があった旨の報告があった。ただし、9月上旬は各大学入試や経済学会等の関連行事が入る可能性があり、日程については連合理事会で検討されることとなる。

[庶務]

佐藤担当理事より、関根事務員が3月末で退職したことに伴い、退職金を支払ったとの報告があった。

前田担当理事より、欧文誌の出版助成の目的で申請していた科学研究費が採択されたとの報告があった。

審議事項

< 議題 2 > 賞の選考について

佐藤理事より、賞の選考のスケジュールについては、前回及び前々回の理事会で報告した通りであるとの確認があった。また各賞の推薦書文面のもとの原案が大筋で認められたが、いくつかの修正点をもとに庶務担当理事が最終版を作成することになった。賞状及び賞牌の手配手順については鎌倉理事が担当することになった。

山本会長より、全ての賞に共通の選考委員であ

る「会長が推薦し評議員会が承認した者」として、舟岡史雄会員（信州大学）、藤井光昭会員（中央大学）を評議員会に推薦したいとの報告があった。

< 議題 3 > 75周年記念行事の企画について

山本会長より、75周年記念行事を企画するにあたり、実行委員長を杉山高一会員（中央大学）に引き受けて頂いたとの報告があった。

また鎌倉理事より、実行委員をリストアップしている段階との追加説明があり、統計学会の理事からも実行委員を選出することになった。

< 議題 4 > 事務局の体制及び庶務理事の仕事について

佐藤理事より、統計学会庶務理事及び統計学会事務局が連合大会事務局の実質的な仕事の多くを負担していた過去の経緯があり、庶務理事の一人が連合大会事務局の担当を兼ねてきたが、最近の仕事が連合の他学会に分散しつつあるとの説明があり、また庶務担当理事の過度の仕事を軽減するためにも、連合大会担当理事を追加して欲しいとの提案があり、認められた。

また統計学会事務局のありかたについても検討した。

< 議題 5 > 入退会者の承認

資料が回覧され入退会者の承認等がなされた。

< 議題 6 > 統計関連学会連合の事業委員の推薦

連合理事会の下部組織として組織される事業検討委員会に関して、統計学会選出の事業委員の候補者を検討し、本人の意向を確認の上推薦することになった。

< 議題 7 > 分科会の会長交代について

山本会長より、計量ファイナンス分科会の会長を森棟会員から山本会長に交代したいとの申し出があり、評議員会に報告することになった。

<議題8>名簿の改訂方針について

本年度中に予定される名簿改訂について、個人情報保護の観点から記載事項に関する問題提起があった。原案を庶務理事3人が作成することになった。

<議題9>2005年度事業計画および予算の方針

前田理事より、2005年度事業計画案の説明があり、基本的には例年と同じであるが、名簿発行が予定される点が昨年と異なり、この点が予算案にも反映される旨付言された。

12 会報No.123号の訂正

前号の会報No.123号におきまして、「統計関連学会連合規定」を掲載いたしました。<組織>第5条に誤りがありました。関係の先生方や会員の皆様にご迷惑をおかけしました。お詫び申し上げますとともに、訂正したものを掲載させていただきます。なお、規約を含む統計関連学会連合の詳細につきましては、下記のWebページをご覧ください。

<http://www.jfssa.jp/>

訂正：

<組織>

第5条

理事は、各学会からの推薦者（若干名）によって構成される。

13 事務局から

入会案内文書の改訂

入会のお誘い文書を簡素化し更新しました。本会報にも見本を1枚同封いたします。また学会のホームページからも参照・ダウンロードできるようになっておりますので、身近な方の勧誘にご活用下さい。

投稿のお願いとお知らせ

統計学の発展に資するもの、会員に有益であると考えられるものなどについて原稿をお送りください。新刊の紹介なども歓迎いたします。

来日統計学者の紹介につきましては、訪問者の略歴、滞在期間、滞在先、世話人などをお寄せ下さい。さらに、求人案内（教員公募）なども受け付けております。

できるだけe-mailによる投稿、もしくは、文書ファイル（テキスト形式）の送付をお願い致します。

原稿送付先

〒560-0043 豊中市待兼山町1-7

大阪大学大学院経済学研究科 大屋幸輔 宛

Tel：06-6850-5245（ダイヤルイン）

Fax：06-6850-5277

E-mail: kaiho@jss.gr.jp

（統計学会広報連絡用e-mailアドレス）

学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに、氏名と住所を以下にお伝えください。手続きに必要な書類が送付されます。

〒107-0062 東京都港区南青山6-3-9

大和ビル内財団法人統計情報研究開発センター

日本統計学会係

TEL：03-5467-0481，FAX：03-5467-0482

E-mail：jstatsoc@sinfonica.or.jp

訃報

次の方が逝去されました。謹んで追悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

李 乗昌会員（2004年）
北畠 暁会員（2004年）
浅井 晃会員（2004年5月）

現在の会員数（2005年7月7日現在）

名誉会員 24名
正会員 1449名
学生会員 61名
総計 1534名
賛助会員 17法人
団体会員 3団体

退会者

富里設夫，佐藤喬俊，関口光正，野澤正徳，小谷野仁，荒畑恵美子，佐藤義信，国府田晃

- ・統計学会ホームページURL：
<http://www.jss.gr.jp>
- ・統計関連学会ホームページURL：
<http://www.jfssa.jp>
- ・住所変更連絡用e-mailアドレス：
jusho@jss.gr.jp
- ・広報連絡用e-mailアドレス：
kaiho@jss.gr.jp
- ・その他連絡用e-mailアドレス：
jimu@jss.gr.jp

統計・コンピュータ分野 非常勤スタッフ募集

統計ソフトウェア S-PLUS 関連業務の拡大につき、株式会社 数理システムでは統計学およびコンピュータに関する知識と意欲を持ったスタッフを募集しております。ご関心のある方はぜひ一度ご連絡ください。（能力・経験に応じた条件・待遇を設定します。応募の秘密厳守、S 言語の利用経験のある方歓迎します。）

（業務内容） 能力を生かせる、様々な業務があります。

- ・ 統計関連英文翻訳、各種技術文書作成、製品サポート、その他能力に応じて。
- ・ 遠隔地での在宅勤務、アルバイトも可能です。ご相談ください。
- ・ 常勤の正規スタッフも随時募集しております。詳しくはホームページをご覧ください。

株式会社 **数理システム** S-PLUS グループ（会社案内はホームページをご覧ください）

TEL.03-3358-6681 FAX.03-3358-1727

（URL）<http://www.msi.co.jp/> e-mail: splus-misc@msi.co.jp